

なえちゃん☆ぼーちゃんの

園研究のは・な・し



ひがしなえぼ幼稚園では、札幌市の研究実践園として幼児教育の質の向上を目指し、園の研究や保育に取り組んでいます。今回は、2学期の保育実践の中から3～5歳児の事例研究をご紹介します。

実践事例(エピソード)を基に保育の実践についての話し合い

『年少:これ、どうぞ』(抜粋)(9月上旬)

1学期末から親しんでいる色水遊び。教師が誘うと、すぐに興味をもち、色水で遊び始めた6人。同じ場でそれぞれが色水を混ぜたり、移し替えたりすることを楽しんでいる。

思いのままに楽しんでいたA児がコップの色水をジュースに見立てておいしそうに飲む真似をした。おもむろにA児が飲み終わった色水を「これ、どうぞ。」と正面にいるB児へ。このやりとりをしばらく繰り返して、楽しんだ。

<教師のねがい>

- 好きな遊びを友達と同じ場で楽しんでほしい。
- 教師や友達と言葉や動作などで簡単なやりとりを楽しんでほしい。
- 「ごっこ遊び」の楽しさを味わってほしい。

主体的な学び

安定感・安心感 興味
や関心 自発性 好奇心

対話的な学び

信頼関係 相手への感情・意識
イメージの共有 共感

深い学び

感触・感覚・感動 気づき・発見の喜び

見方・考え方

- 色水がジュースに思える。
- おいしそうに飲む真似をすると楽しくなる。
- 友達に言葉を添えて渡すと、ジュースだと分かって飲む真似をしてくれる。



<話し合いから>

- 3歳児でやりとりを大事にすることは、対話させるのではなく、対話したいと思うことが大切。
- まだ「つもり遊び」「見立て遊び」の段階。自分の動きに相手が応えてくれることが楽しい。「おいしかったね」「楽しいね」という雰囲気盛り上げる援助が大事。
- 相手がいて楽しいと思うのは、遊びの転換期である。「～みたい」が気づきや発見の喜びにつながる。その中に学びがあることや幼児が何を楽しんでいるのかを見取ることが大切。見立てたことを教師が「ジュースなんだね」と言ってくれることがうれしい、「先生が大好き」という土台を築くことが3歳児にとって大切。
- 何んでも認めてもらえることがうれしい。先を求め過ぎないことも大切。

「見方・考え方」って どんなこと?

幼児が身近な環境に主体的に関わり、心動かされる体験を重ねて、身に付けた力や感覚を働かせながら、試行錯誤したり、思い巡らしたりすること。

『年中：ひまわり組だけで、リレーやったよ』（抜粋）（9月下旬）

C児が「リレーをしたい。」と教師と一緒にバトンを持って園庭中央に行くと、「入れて。」と10人ほどが集まる。

白と青のどちらか好きなチームに分かれる。D児が並んでいる列を見て「白が少ないから、誰か白になってくれない？」と叫ぶ。すると、「白になる。」とE児が移動。D児が「帽子白にして。」と伝え、C児は変える。

F児が教師役になりスタート合図をして始まる。「よーい」を溜め過ぎてタイミングがずれ「待って、いい〜、ドン！」と繰り返す。子どもたちは一生懸命に走りF児のタイミングでリレーが終わり、F児の采配で結果が決まるなどしていたが、勝敗に声を上げて喜ぶ。

<教師の願い>

- ・友達と関わりながら遊ぶことを楽しんでほしい。
- ・のびのびと体を動かして遊ぶことを楽しんでほしい。



主体的な学び

興味や関心 自発性 持続性
粘り強さ 見通し

対話的な学び

信頼関係 相手への感情・意識
思いを伝える イメージの共有 共感

深い学び

試行錯誤 気付き 予想・予測・確認

見方・考え方

- ・年長のようにリレーをしたい。
- ・先生のように合図したい。
- ・同じ人数がいい。

<話し合いから>

- ・走ることや勝敗、バトンを同じ色の人に渡すことが楽しいようだ。チーム意識をもち始め、人数を合わせようとするなどの「気付き」が見られる。教師が見通しをもち、いつでもリレーができる環境の保障や学級で取り上げるなどの援助がよかったのではないか。
- ・やりたいことが実現できる経験を積み重ねてきたことで、自分たちでやりたいという気持ちが芽生えてきている。年長児の様子をよく見て真似ている。
- ・友達が言ったことを予想したり、きっかけがあれば気付いたりするなど、アンテナをすごく張っている。『主体的な学び』には周りの友達の様子を見ることも大事。
- ・何度もリレーに入れてくれた年長児の存在が大きい。見たことや経験したことが来年の姿につながる。担任が焦らず、子どもが楽しんでいることを探り、存分に楽しめるような援助していることがよいのだろう。先を急がせず、これで良いという安心感や自分もできたという感動が充実感につながるのではないか。

『年長：増やし鬼でのトラブルを経て』（抜粋）（10月上旬）

幼児同士で話し合っ、この日は増やし鬼をすることになった。鬼のG児にタッチされたH児が「私を狙った」と怒ってG児に訴え、帽子の色を変えなかった。仲間となっていた担任に「ゲームだから仕方ない。」と言われてもH児は納得いかずG児に訴え続ける。

気付いた周りの幼児が駆け寄って「狙ったわけじゃないよ。」とH児に言う。G児も大きな声で「狙ったわけじゃない。」と言う。

H児は皆の話を聞いて、帽子を裏返し、遊び出した。

＜教師の願い＞

- ・幼児が主体的に遊びを進める楽しさを味わってほしい。
- ・幼児同士の対話で問題を解決できるようになってほしい。

主体的な学び

安定感・安心感 自発性 探究心 見通し

対話的な学び

信頼関係 相手への感情・意識
思いの伝え合い イメージの共有 共感

深い学び

試行錯誤 気付き 予想・予測・確認

見方・考え方

- ・皆で楽しく遊びを続けたい。
- ・H児にルールだということを分かってほしい。
- ・自分が伝えたら分かってくれるかもしれない。

＜話し合いから＞

- ・皆がG児とH児のやりとりを気にして自分事として話し合おうとする姿に友達とのつながりを感じる。
- ・H児が友達の話を受け止め、感情をコントロールしたところが成長である。
- ・H児がG児の人柄を見て受け入れたというより、「そういう遊びなのだ」と分かったのではないか。また、「周りの幼児も」ではなく、「周りの幼児が」解決して遊びたかったのだろう。
- ・「誰と」だけでなく「何をするか」といった気持ちが強くなってきている。そのためにはどうしたらよいか目的になってきている。集団の育ちが見える。
- ・個の育ち、集団の育ちは同時進行。『幼児期にふさわしい生活の在り方』につながる。幼児が見合ったり、刺激し合ったりできる環境になっていることや、やりたいことができることを保障しているかが大事。

事例を通して 分かってきたこと

- 教師との信頼関係をもとに、3歳児からやりたいことが実現する生活を積み重ねられるような援助。
- 幼児の楽しんでいることや心情、学びを見取り、見通しをもった援助。
- 幼児が互いの遊びを見合い、刺激し合えるような場が保障される環境。
- 先を急がず、たっぴりと遊びに浸れる場の保障や、幼児が遊びを進める中、葛藤体験や「これでよい」と安心感や自己肯定感を味わえるような援助。

寒い季節ですので、健康に気を付けて保育にあってくださいね！



今後も、“きらきら わくわく”する遊びを通して、遊び込む子どもたちが育ってほしいと願い、保育の充実に向けて研究を進めていきます！